

[23_04]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470147>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 23 (4), 1990-07-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

編集後記

夏が続いたかと思うと朝晩が寒かったり、集中豪雨で九州各地に大きな被害をもたらしたり、今年の梅雨は随分と暴れんぼう。大自然の気まぐれは笑って済ませられない大変なことです、人の気持ちもその日によって弾んでいた、沈んだり、でも私はそんな人の感情が大好きです。

開放的な夏を迎え、この広報を読んでいらっしゃる方は、大部分、計算機大好き人間（またはそれに近い）の部類に入られると思いますが、私は計算機大嫌い人間に近い存在です（まだ何も解っていないから好き嫌いを言う資格がないと言うのが現実ですが）。科学も素晴らしいし、その恩恵に浴している部分は数え切れません。でも、私は、計算通りに行かないもの、割り切れないもの、答えのでないものに興味を持ちます。この状態でこうすれば……なんて面白くもない。一度っきり…が素晴らしいと思うのです。

書を書くのが大好きな私は「字は体を表わす」「字（書）は人なり」と心から確信します。書かれた肉筆の文字にはその人の人となりや想像させる楽しさがあります。でも整然と印字された文字は冷やかです。何でもワープロ、コピー、そのうちロボット、クローン人間、人が人の命を操るなんて…なんと恐ろしい。ゾッとして背筋が凍てつきそうで夏向きかも知れませんが、心だけはいつもホット！に。

游笑飛

左の写真の書、ほのぼのとしていてもあったかーいと思いませんか？ これは中国の留学生の方の隷書の作品の一部です。人柄が感じられて素晴らしい。私の書く書は優しい性格(?)の苦なものにもっときつくなりそう。何事にも例外はつきもの。これはきっと「書（字）は人なり」の例外!!かな?????

時には自分の肉筆（手書き）を眺めて自分を振り返ってみるのも如何なものでしょうか。

（心優しきもと乙女 S. A.）

大分や熊本で集中豪雨の多くの爪痕を残し、今年も後10日程で例年どおり梅雨が明けようとしています。我がT町では、この時期梅雨の鬱陶しさを乗り切るため、ソフトボールとバレーボールの親睦試合が計画されています。昨日の日曜日、バレーボール大会が行われ、女子チームは、国体の町代表の出場権をかけて、日頃の成果を競いました。若さに勝って老練さに負け、ユニホームに勝って技に負けと、さまざまな勝敗の世界が展開されました。ここで力を発揮したのは、日頃の練習もさながら、30代・40代のまさに子供時代しっかりとスポーツの基礎（走る、跳ぶ、投げる等）を鍛えたオバタリアンチームでした。国体といえば、各競技での参加にはほど遠い存在でしたが、わがT町を6区間に分けて走る炬火リレーには、一般の部で参加できるようになりました。13人編成で1区間1km前後を走ります。この炬火は、英彦山で採火される「心にときめく霊峰の火」と呼ばれるもので、近隣の市町村を回って国体のムードを盛り上げていきます。そのムードに吞まれてしまった私が応募してしまったのです。オバタリアンはムードにも弱いのです。

（健在なりオバタリアン）

